

午後 2 時59分 開会

○事務局（山根） それでは、皆さんがそろわれたようですので、ちょっと定刻より早いですけれども、始めさせていただこうと思います。どうぞよろしく願いいたします。

委員の先生方には、ご多忙のところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

早速ですが、ただいまから令和 6 年度第 2 回岡山市自然環境保全審議会を開催させていただきます。

私は、本日司会を務めさせていただきます環境保全課自然保護係の山根と申します。

今回ご参加いただいている委員の方は、こちらの会場が中村委員、大塚委員、八田委員、リモート参加が池本委員、田辺委員、堀江委員、宮崎委員、山地委員です。中田委員は、ご都合により欠席されております。

事務局は、横山環境保全課長、阿部課長補佐、遠藤、小野と私、山根でございます。

今回の審議事項である（仮称）生物多様性おかやまプランの策定の受託業者である株式会社地域環境計画の根岸様、上田様、池田様にリモートで参加していただいております。

また、今回、本議会に係る議事録作成を担当します株式会社議事録発行センターに臨席いただいております。

それでは、開会に当たりまして、課長の横山から挨拶申し上げます。挨拶については、カメラ、マイクの都合上、着席のままさせていただきます。

○横山課長 本日は、年末のお忙しいところ、自然環境保全審議会にご出席いただきましてありがとうございます。

委員の皆様には、日頃から本市の自然環境の保全に関する施策に対し、ご理解、ご

協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、本日の審議事項となっております（仮称）生物多様性おかやまプランにつきまして、先月行われました第3回のワークショップに私も参加をいたしました。今回は、企業の方、自然保護活動をしていらっしゃる団体の方にもお集まりいただきましたが、小さなお子様と一緒に自然体験をしてみたいとか、活動に熱心に参加する小学生の知識がすごいとか、そういう発言が私は気に留まりました。

先日読んだ新聞によりますと、神戸市の話になりますが、大学生と高校生が何が生態系を脅かすのかについて取り組む中で、環境の意識を芽生えさせるためには小学生のときの体験が鍵だと考えて、生物多様性を学ぶ動植物を観察するイベントを提案したとありました。生物多様性の保全を進めていく上で、子供、小学生、若者を意識することが大切であると改めて感じたところであります。

本日は、ご審議のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（山根） 本審議会では、事務局からの審議事項の説明の際、資料をディスプレイに映します。リモート参加の方には、Zoomの画面共有機能を使用させていただきます。ご不明な点があれば、その都度聞いてください。

続きまして、審議会の設置規定等について説明させていただきます。

本市議会は、岡山市環境保全条例第52条の2第3号に基づいて設置されています。また、本日は、委員9名のうち8名と、過半数の出席をいただいておりますので、会議は成立いたします。

それでは、議事に移らせていただきます。

ここからの議事進行は中村会長にお願いいたします。

なお、ご意見等の発言をされる際には、Zoomの挙手ボタンを押していただくか、よろしいですかとお声がけください。

また、質疑応答の時間は、全員カメラをオンしていただきますようお願いいたします。

それでは、中村会長、お願いいたします。

○中村会長 はい、よろしく申し上げます。

急に物すごく寒くなりましたけども、お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。

本日の審議事項は、（仮称）生物多様性おかやまプランのみということになります。もうしばらくずっと、去年から続けてきた話なんですけども、かなり具体的というか、方向性の具体的なところ、それとか目指す将来像、そういったところについて、今日は決められるところは決めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、（仮称）生物多様性おかやまプランの策定について、事務局から説明願います。

○事務局（山根） はい。本審議事項については、株式会社地域環境計画の根岸様から説明していただきます。

まず、資料1の初めから3-3、ワークショップの結果までを説明した後にご審議をいただきます。その後、4について説明し、ご審議いただきます。

それでは、根岸様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○根岸 はい。株式会社地域環境計画の根岸でございます。よろしくお願い申し上げます。

それでは、資料1のほうを共有させていただきます。今パワーポイントのほうの資料を共有させていただいておりましたが、ちょっとまだできておりませんね。すいません。少々お待ちください。

すいません。こちらでパワーポイントのほう、共有できておりますでしょうか。

○事務局（山根） はい、大丈夫です。

○根岸 はい、ありがとうございます。

それでは、説明のほうを開始させていただきます。

本日ですが、以下の4点につきましてご審議いただきたいと考えております。まず、1点目、第1回岡山市自然環境保全審議会の審議事項に対する指摘事項と対応方針について。2点目、(仮称)生物多様性おかやまプランの方向性。3点目、岡山市の現状と課題。4点目、目指す将来像案と施策体系の頭出し。以上の4点になります。

お手元の参考資料ですが、念のため確認させていただきたいと思います。

6点の参考資料をご提示させていただきました。参考資料1のほうは、1点目の議事事項の前の指摘事項と対応方針を整理したものになります。2つ目の参考資料2は、戦略の目次構成、図表一覧になります。そして、参考資料3、こちらがおかやまプランの骨子案となります。現在作成中のものです。参考資料4が岡山市地域特性の整理結果で、参考資料5がアンケート結果の報告書、そして最後、参考資料の6が第2回のワークショップの実施報告ということになります。

お手元に全てございますでしょうか。適宜ご参考いただければと思います。

それでは、説明のほうを進めさせていただきます。

まず、第1回岡山市自然環境保全審議会の審議事項に対する指摘事項と対応方針についてでございます。

前回の審議会におきましては、11点の指摘事項をいただきました。内容としましては、動植物のリストの更新についてが3件、おかやまプランへの記載内容についてが3件、環境の類型区分についてが1件、そしてアンケートについて4件、以上の11件についていただいております。それぞれにつきまして、追加調査や分析を行うなど、最適な方針にて対応をさせていただいております。具体的な対応方針につきましては、参考資料1のほうをご参考いただければと存じます。

本日は、1点だけ確認をさせていただきたいのですが、こちらの参考資料1の3ページ目ですが、皆様のお手元にございます資料段階より一部修正をさせていただきました。今、画面で共有をさせていただいておりますが、指摘事項10に対しての回答、

対応方針がやや不明瞭な書き方をしておりましたので、この赤字のとおり修正させていただいております。当初は、今回は終了しているため、ご指摘事項については次回以降の市民モニタリングで採用しますというふうに回答させていただいていたのですが、ちょっと内容が不明瞭でしたので、もう少し具体的にいたしました。読み上げさせていただきますと、赤字部分です、ご指摘事項については、今回は終了しているため、改定時等に実施する環境関連アンケート等において対応するよう留意します。このように修正させていただきましたので、ご報告させていただきます。

まず、1つ目の議事事項については以上になります。

続きまして、2番目、(仮称)生物多様性おかやまプランの方向性。

以下の2つの事項につきましてご説明申し上げます。

こちらが今回作成していきますプランの内容構成ですが、前回の審議会でもお出しさせていただきましたが、この赤字部分につきましては、前回から修正させていただきましたので、ここをご説明申し上げます。

まず、1点目、左側の赤字のほうですが、前回は4番の部分に岡山市における生物多様性に関連する施策等という項目を入れておりました。ですが、施策は後半で整理することになっておりますので、ここではその項目は取り上げないとしまして、追加的に現在5番に入れております中高生・市民・事業者アンケート、これを入れる形としております。

さらに、右側の赤字の中ですが、こちらも現行の戦略に合わせた施策体系を当初案として出していたのですが、やや分かりにくい構成でしたので、新たな構成でこちらの項目とさせていただきました。

以上がおかやまプランの全体の目次ということになります。

具体的な部分は、さらに詳細までを参考資料の2のほうに一覧として載せておりますので、適宜ご参照ください。

次、お願いします。

先ほどのプランの内容構成を前提に、今回の審議会の中でご審議いただきたい事項をまとめたのがこちらの表になります。

前回で方向性のお話は終了しまして、今回は2番目、現状と課題の社会状況と自然状況、こちらにつきましては最終回となります。この具体的な部分は、参考資料のおかやまプランの骨子案のほうで具体的にご確認いただければと思います。さらに、生物多様性の状況ということで、生物相の状況、地域区分、地域特性、課題、取り組むべき事項、こういったことが今回で審議をいただく中心的な事項となります。さらに、右側に移りまして、アンケート調査の結果、それからワークショップ第2回の結果、こちらのほう、ご報告をさせていただきます。

さらに、3番、4番というところがそれぞれプランの施策の部分になりますが、プランの理念あるいは将来像、また施策体系という部分の内容になっていきます。こちらの審議が具体的に今回から始まっていくということで、特に理念と将来像につきましては、今回ぜひ決定のところまでご審議いただければありがたいなと考えているところです。

はい、以上です。

それでは、続きまして3番目ですね。岡山市の現状と課題、こちらのほうの整理結果のほうを説明させていただきます。

まず、3-1、岡山市の地域区分と課題の整理ということで、(1)岡山市の自然特性から見た地域区分になります。

まず、こちらですが、前回と大きく異なる部分がございます。前回は、山地エリア、里地里山エリア、沿岸域エリアという3つの区分に大きくさせていただきました。そこにその他の浮き出しとして市街地というものを取り出すというような提案をさせていただいたんですが、山地の区分については、山地という切り出し方が少し課題があるんじゃないかというようなご意見をいただいたことから、再検討いたしまして、里地里山エリアという形でまとめました。そこにさらに、前回の沿岸域エリアと

していたところを低地・干拓地エリアということにしまして、大きくはこの2つの区分にいたしました。そこに市街地の部分というのを抜き出して拡張的に示すという部分は、今回は変更しておりません。以上から、里地里山エリア、低地・干拓地エリア、市街地というこの3つの区分で現況の把握及び課題の整理を行いました。

今後は、水系及びみどりの軸で生態系ネットワークを示す予定にしております。

ベースの図としましては、こちらの画面の左側に出したような形で区分の図が描かれる想定でございます。

以上の地域区分からそれぞれ課題の整理をした結果というものをここから3つの区分でお示しします。

まず、生物多様性の視点からというのがこのシートになりまして、残る2つが生態系サービスの視点から、あるいは保全活動等の視点から、それぞれ地域別に整理したのになります。

まず、生物多様性の視点からですが、左側、里地里山エリアの課題としますと、大きくはこの太字で書いた内容になりますが、まず特徴と強みとしまして、市域の樹林面積の大半が存在し、樹林性の動植物の生息生育環境となっているということ。また、里地里山の生態系が成立しているということ。そして、魚類の法令指定種の希少種が生息するという。こういったことに代表されます。一方の課題としましては、耕作放棄地や荒廃樹林、竹林が拡大していること。あるいは獣害の増加による生物の生息環境が変化していること。こういったことが上げられます。

続いて、2つ目のエリアですね。低地・干拓地エリアですが、特徴と強みとしましては、広大な水田を中心とした耕作地地帯であるということ。そして、水路網が形成され、汽水域のヨシ原や干潟、あるいは児島湖の発達したヨシ原など、水辺の生き物の生息生育環境として機能しているという点が上げられます。一方の課題としましては、干潟などの消失のほか、水路や水田のネットワークの分断といったことが見受けられます。

それ以外に、両エリアにまたぐような形で存在する市街地の部分ですが、この特徴と強みというのは、水路網のほうは暗渠にならずに残っており、緑道が水路沿いに整備されていることであったり、あるいは水と緑の導線がつけられていることであったり、緑地や水路が希少種の生息生育環境となっている。こういったことが挙げられると考えております。一方の課題としましては、水辺のコンクリート化、あるいはまとまった緑が少なく、緑が分断されている。こういった部分が見られます。

以上が生物多様性の視点からの課題の整理です。

続きまして、生態系サービスの視点からになりますが、こちらもエリア別と市街地とで抽出してみました。

里地里山エリアは、やはり中に含まれる要素が多いことから、それぞれの生態系サービスにつきまして、かなりしっかり挙がってきているという状況でございます。供給サービス、調整サービス、文化的サービス、基盤サービス、それぞれの機能を高く有しているということが分かる状況でございます。一方で課題としましては、森林荒廃による水源涵養、あるいは土砂流出の防止機能、防備機能の低下。こういったことが挙げられます。

一方で、2つ目のエリア、低地・干拓地エリアですが、こちらもそれぞれの生態系サービスの特徴は出されてきているかと思えます。課題も、先ほどの生物多様性とも若干似てる部分もございますが、2点ほど出されています。例えば耕作面積の減少や防災・減災機能の低下、あるいは干潟やヨシ原の縮小による水質浄化機能の低下や海産物の減少、このようなものが挙げられます。

最後に、市街地ですが、こちらはエリアが限られますので、生態系サービスの種類としてもやや限定的にはなりますが、調整サービス、文化的サービスの部分でこのような点が挙げられました。課題としましては、緑地が少なく分断されているといった機能面の課題が挙げられています。

最後に、3点目ですが、保全活動等の視点からということで、人に着目した形での

課題を抽出しております。

まず、里地里山エリアですが、特徴と強みとしましては、やはり2つ目の黒ポツのところですが、多くの保全活動がなされているという実態がございます。保全活動の場があるということです。一方で課題ですが、下から2つ目の太字のところですね。保全活動の場としてもポテンシャルは高いが、次の担い手の確保が急がれるといったことであったり、あるいは企業の保全活動の場としての利活用や情報発信について検討が必要である。こういった課題がございます。

2つ目の低地・干拓地エリアにつきましては、特徴と強みとしまして、里地里山エリアと比較しますと、こちらで環境に適応した活動というのがなされてはいるものの限定的であるというような部分がございます。特徴であり課題であるかなというところでございます。

市街地のほうにつきましては、それぞれ活動も個別には抽出するとあるんですが、全体としてはやはり活動の場が少ないということが挙げられます。

以上、3つの視点から課題について整理した結果となります。

続きまして、アンケート調査の結果をご報告させていただきます。

前回の審議会では速報として何点か結果のほうをご報告させていただいたんですが、今回は全ての分析がもう終了しましたので、最終的なご報告という形でご報告させていただきます。

全体の回収率、配布数、回収数というのは以上のような状況になりました。市民の回収率が若干低めであったという課題がございますが、その他につきましてはおおむね良好な結果が得られたのではないかと考えております。

次、お願いします。

特徴的なアンケート結果につきまして、7点ほど項目出しをさせていただきました。

まず1点目、岡山市の身近な自然について。こちらは中高生、市民にお聞きした結

果となりますが、中高生では特にないという回答を除いて、旭川あるいは百間川というのが一番多かった結果です。市民の中でも最もそれが多結果でして、旭川、百間川というのが幅広い世代の市民から身近な自然として認識されている結果が示されました。

続きまして、岡山市の自然について。これは、3つのそれぞれの対象の方に全てお伺いした結果となります。大きくこの結果の帯の部分で特徴的な結果が示されておりますが、中高生は自然が豊かで様々な生き物がいると感じている人は多いものの、身近な岡山の自然については特にないという回答結果が、実はほかのアンケート設問の回答でございました。ですので、それらから、漠然と自然の豊かさは感じているけれども、身近な自然との接点が少ないのかなということが示唆されました。それ以外に市民及び事業者は、5つの選択肢の占める割合が分散しているなというような結果になっております。

続きまして、生物多様性の認知度ですね。こちらにつきましては、市民及び事業者に質問をいたしました。その結果につきましては、市民、事業者とも知っているあるいは聞いたことがあるという回答が占める割合が全体の六、七割と同程度であって、全国規模ではあるかなというところではございます。どこに着目するかというところもあるのですが、全国規模ではないかなというところではありました。

次、お願いします。

続きまして、生物多様性の言葉の意味と認知度ですが、これは過去のアンケートでも実際同じ設問をしておりましたので、そちらとの比較を行ってみました。その結果がこちらのそれぞれのグラフになりますが、市民と事業者について示しております。上が今回やったアンケート、下が平成28年度に行ったアンケートの結果です。市民のほうですが、知っている及び聞いたことがあるの割合がいずれも今回のほうが高い形になっております。したがって、生物多様性の全体としての認知度は市民の間では増加していると考えてもよいのかと思います。一方、事業者のほうは、その逆の結

果になりました。ただ、結果に対しましては、実際にアンケートを行った事業者の特性等にも影響してくるかなと、関係してくるかなと思われまますので、なぜこのような結果になったのかというところは、今回は十分な分析は難しいところではございます。

続きまして、5つ目ですね。事業活動と生物多様性保全の取組との関連性ということで、事業者の方へ設問したものの過去との比較を行ったものでございます。同じく、上が今年度、下が平成28年度の結果となります。今年度で事業活動との関連性が低いというのが62.1%を占めて、28年度から増加しているというところは大きな変化かなというふうに考えております。全体としては、事業活動と生物多様性には関連があるという認識がやや低下傾向にあるのかなというふうに考えております。

続きまして、次の設問ですね。岡山市に力を入れてほしい生物多様性の取組ということで、市の施策に対する市民の要望という部分を聞いた設問になります。このグラフの中からも分かるように、4番目の選択肢ですね、貴重な生き物、身近な生き物がすむ環境の保全や整備を進めてくださいというものが一番多い44.9%になっております。それ以外にも、参加型の自然観察会や体験イベントなどを増やしてほしいであったり、あるいは街路樹や緑地、ビオトープの設置及び整備ということで、周りの緑を増やしてくださいというのでの要望も高いことが分かります。一方で、下から2つ目ですね。30.5%と比較的高い選択率であったものとして、インターネットやSNSを活用した情報発信というものを望む声も多く聞かれたのが非常に特徴的だなという結果でございました。

最後、7つ目ですが、岡山市に実施してほしい生物多様性の施策ということで、こちらは事業者さんに設問した回答になります。最も多かったものがやはり補助金による支援ということで、なかなか自前の資金ではしっかりやり切れないという部分も大きいのかなというふうに感じました。あるいは下から2つ目の取組の参考となる事例集やガイドラインといった情報提供が欲しいということで、まだ何をやっていいか

分からないという事業者さんも多いのかなというふうに感じております。

以上、代表的なところで結果を7つほどご紹介させていただきましたが、お手元に参考資料5として結果一式をご提示させていただいておりますので、ぜひそちらのほうも参考ください。また、末尾には、前回の審議会のほうでご指摘いただいた、それぞれの世代で傾向が出ないのかとか、その傾向を見れないのかといったことへの対応としまして、クロス集計の結果も加えておりますので、ぜひご参考いただければと思います。個別にはちょっとボリュームが多くなりますので、アンケートにつきましてはここまでとさせていただきます。

続きまして、市民意識の把握、2つ目ということで、ワークショップについての報告になります。

こちらは第2回目の報告になります。11月9日に実施されまして、大学生を対象にしたワークショップでした。全体で20名の学生さんが参加してくれまして、岡山理科大さんから10名、岡山大学さんから10名と、非常によいバランスでご参加いただきました。出身を見てみるとちょっと面白いんですが、岡山県外の出身者が16名という状況でして、県内から3名、あるいは市内から1名だったというような形で、昔から岡山市内の自然に親しんできたという学生さんではない分、岡山市の自然に対する客観的な意見がもらえたのではないかなというふうに考えております。座学とそれからグループワークで、今回のゴールは、次のような形で情報発信の手法の提案というような形で設定させていただいて進めました。

次をお願いします。

具体的には、参加者意見ということで以下のようにまとめさせていただきましたが、いろいろと活発なご意見をいただきました。どのような方法や媒体から保全活動の情報を取得しますかということに対しては、実際、学校の掲示であったりということを活用している学生さんが多いことが分かりました。それ以外にも、やはりネットが多いといったこともありますし、あるいは公的機関であったり、家族からというよ

うなことでした。

今例えば保全活動に参加してない場合に、どんなことがあったら参加しようと思えますかというような理由や条件というものを聞いてみたところ、保全活動がありますよということだけではなかなか参加しづらいと。それに対して活動する場所、シンボリックな情報とかに関する適切な発言があったら、より参加しやすいといった意見であったり、あるいは参加することに対するインセンティブがあるといいといったことであったり、ちょっと面白かったのは、これの一番下にあるんですけども、就職活動とつながるような企業とのコラボがあれば保全活動参加の動機になると。確かに現実的にそう考えられる部分というのものもあるかもしれないなど、非常に参考になった意見でした。

次をお願いします。

そのほかにも、自分が保全活動をする側だったらどのような情報発信手段が効果的と思うかということも課題にしてみたんですけども、意外にネットワークに頼るだけではなくて、学校と連携した情報発信をしたほうがいいんじゃないかということであったり、チラシにQRコードをつけてSNSに誘導してはどうかとか、あるいは実用性があるものに印刷して配布してはどうかといったような、SNSあるいはアナログなことのハイブリッドで進めたほうが効果的なんじゃないかというようなご意見をいただいて、こちらもちょうど意外ではあったんですが、これまでのやり方が必ずしも効果的ではないというわけではないことが分かって、非常にこちらの勉強にもなったというところでもございました。それ以外の意見としては、いろいろと挙げていただいたんですけども、イベントカレンダーのようなサイトがあるといいなということであったり、幼少期から自然に親しむ経験がないとなかなか難しいですねという意見があったり、現役世代のまさに次世代を担う大学生の意見というところでいろいろお伺いできたというところでもございます。

詳しい部分は参考資料の6のほうに整理しておりますので、ご参考ください。

施策につながる意見、提案というところも、先ほどとかなり似通った部分はございますが、いろいろと挙げていただいておりますので、こちらもぜひ参考資料のほうをご参考いただければと思います。

以上、少し長くなりましたが、ざっと今回の審議事項の3の部分までご説明させていただきました。一旦ここで説明を終了とさせていただきます。

○中村会長 ありがとうございます。

前回の委員の先生方のご意見とかも踏まえながら、岡山市の現状であり、課題でありといったものを分かりやすく説明していただきました。

このことについてご質問、ご意見がありましたら発言願います。

いかがでしょうか。結構分かりやすくまとめていただけたかと思うんですけども、それに加えてまだ質問であるとか、さらにこういうふうなことがあればいいんじゃないとか、いろいろあるかと思えますけれども、どうでしょうか。

○根岸 中村先生。

○中村会長 はい。

○根岸 根岸ですけれども、こちらから1点、ぜひ委員の皆様にお伺いしたい点、よろしいでしょうか。

○中村会長 はい、お願いします。

○根岸 はい、すいません。パワーポイントでいいますと地域区分の部分なんですけど、すいません、我々がちょっとこだわっている部分ではあるんですが、やはりその地域でこんなことをしたほうが良いということがより分かりやすいプランにしたいと考えているため、地域区分というのをこういう形にするのがいいかなというふうに、今その大きく2つの区分、そして市街地は特に抜き出してというふうに、大きな2つないし3つの区分で考えているんですが、こちらはそのような捉え方でよろしいでしょうか。また、今回、名称としましては、前回の里地エリアというのと里地里山エリアという2つのエリアを、今回、里地里山エリアという一つのくくりにしたんです

ね。そこに前回、沿岸域エリアといったところを低地・干拓地エリアというような言い方にいたしました。このままで進めてよろしいか、一度ご意見をいただけるとありがたいです。

○事務局（山根） 画面共有をしていただいてよろしいでしょうか、パワーポイントのところを。

○根岸 はい。少々お待ちください。

○事務局（山根） はい、ありがとうございます。

○中村会長 この地図についてですけれども、前回から比べると分け方が結構大きく変わったという部分があるんですけれども、面積的にはかなり違いがあるような感じですけど、この分け方、どうでしょうか。

○山地委員 よろしいです。

○中村会長 はい、お願いします。

○山地委員 この分け方だと、昔の陸地とそのころの海というふうな考え方でいいんでしょうかね。

○中村会長 そうですね。だから、海の部分が市街地と干拓地とかそういう2つにさらに分かれるという、そういう感じですね。

○山地委員 別の分け方で言えば、私なんか川と丘というような感じの分け方もあるんかなと思うんですけれど。

○中村会長 水辺があるところとそうじゃないところみたいなそういう感じですね。確かに生き物を見るとそういう分け方もよさそうなんですけど、うまくそれで河川の辺りがすごく形がいろんなとこに中に入り込んでいくような感じになるんですけど、地図的には分けづらくなるような気もするんですけど、いかがでしょうか。

○山地委員 確かに分けるのはちょっと難しくなりますね。

○中村会長 ただ、環境的には河川みたいなものを重視するというのは大切ですね。

○根岸 根岸です。よろしいでしょうか。

○中村会長 はい、お願いします。

○根岸 ちょうど今、こちらの画面を出させていただいておりますが、山地先生、ありがとうございました。この右側の矢印の下に書かせていただいているんですが、今後、水系及びみどりの軸で生態系ネットワークを示す予定というふうにさせていただいております、やはり市域を貫く河川の軸というのはこの上に何とかうまく表現したいとは考えております。地域区分としては大きくその陸域部分と水辺域というようなことでどうしても分けざるを得ないかなと思う一方で、縦の水でのつながりの軸という部分はやはり無視できないので、そこはその中に表現していきたいなとは考えているところでございます。

以上です。

○中村会長 ありがとうございます。そうですね。入ってましたね。ですから、この地図で全体を大きく分けて、さらに水域と陸域みたいな感じで進めていくという、そういう感じでよろしいでしょうか、イメージとしては。そんな感じで大丈夫でしょうか、山地先生。

○山地委員 大丈夫です。

○中村会長 それでは、ほかに何かございますでしょうか。

○根岸 よろしいでしょうか。

○中村会長 はい、お願いします。

○根岸 はい。今の大きな区分でよろしいというご意見をいただきましたので、そうしますと、今回に向けて整理させていただいた各地域の特徴であったり、あるいは課題であったりという部分はその区分けで把握した形で今後も進めていき、最後の施策まで持っていきたいと考えております。ありがとうございました。

○中村会長 そういう形でよろしく申し上げます。

ほか、何かございますでしょうか。

では、私のほうから1つ。アンケート結果で中高生とか若者が自然が多いという、

そういう結果が出てたと思うんですけども、これはポジティブな意見ですか、それともネガティブな意見、何か都会じゃなくて田舎だという、そういう見方をしてる若者が少なからずいるような気もするんですけども。

○根岸 そうですね。そういう意見もあるかもしれないですね。ただ、なかなか結果からだけではそこは読み取れないですが。

○中村会長 いや、将来のことを考えると、若者の意見がみたいなところは重要になってきますので、そのあたりがどちらかによって何かやることがかなり変わってくるかなという印象を受けましたので。

○根岸 なるほど。たとえその自然豊かだということであっても、あるいは田舎だということであっても、我々としてはポジティブに捉えたいなというふうに考えております。

○中村会長 ありがとうございます。

ほか、何かございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○中村会長 それでは、とてもよく分析されてると思いますので、ここまでにしましては、まずはこれで次に進めていくという感じでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○中村会長 それでは、次に進みたいと思います。

それでは、4番、目指す将来像（案）と施策体系の頭出しについて、根岸様、説明をお願いします。

○根岸 はい、ありがとうございます。

それでは、資料のほうを共有させていただきます。

はい。それでは、目指す将来像（案）と施策体系の頭出しということで進めさせていただきます。

ここからが施策の部分になりまして、今回と次でしっかり進めさせていただきたい

部分でありますので、どうぞよろしく願いいたします。

まず、一つ、皆様の資料には入れていないんですが、このお話をさせていただく前に一つ共有しておきたい資料がございまして、それが前年度の第2回の自然環境保全審議会の資料で用いられた施策体系の図になります。そちらのほう、ちょっとまず共有させていただきます。今ちょっと準備しておりますので、少々お待ちください。

こちら、はい、ありがとうございます、昨年度の自然環境保全審議会のほうで、第2回の環境保全審議会のほうで岡山市さんのほうからお示しされたフレームになりますが、国の地域戦略のガイドライン等に沿って、このような形で戦略の施策を整理すると非常に分かりやすいという施策体系の図になっておりますが、一番左側から将来像が来まして、続いて大きな基本戦略というのを幾つか立てると。それぞれにひもづくもので状態目標。これは具体的な基本戦略に対して、その結果どうなるかという、アウトプットに対してアウトカムがこの状態目標ということで、その状態目標というのが2番目に置かれています。じゃあ、具体的にそれに対してどんなことを行うのかというのがこの行動目標ということになって、そのための施策というのでさらに右側にひもづくものとして施策が来ていると。基本的にはこのフレームというものを利用しながら作成していくというのが本年度の我々の方針でございます。

そのうち、この一番左側の将来像というところと一番最初の基本戦略、これが大きな戦略の軸になる幾つかですね。そこを今回ご検討いただければなというところがございます。さらに、状態目標までは案として今回お出しさせていただきます。

そうしましたら、先ほどの資料のほうに戻ります。皆様のお手元には参考資料という形では特にお渡ししてなくて、現在検討してる段階のものですが、はい。

まず、先ほども図で一番左側にありました将来像ですね。これを考えるに当たって参考にしたい意見というものは、次のようなものでございます。まず、こちらで各地域別に分析した現状と課題について。そして、それから第1回のワークショップで市民から寄せられた意見、そして第2回のワークショップで学生から寄せられた意見な

どももちろん参考にはしますが、そこから将来像案というものを検討いたしました。

次のシートがその将来像案になります。今6つ、案として挙げさせていただきました。ちょっと読み上げさせていただきますが、案1は、ネイチャーポジティブを実現し、豊かな自然を未来へつなぐまち岡山。案2が、森、里、川、海、人がつながって生きもので季節を感じられるまち岡山。案の3が、生きものの命と人の暮らしをつないでいくまち岡山。そして、案の4が、自然のめぐみを活かし、持続可能な社会を実現するまち岡山。そして、案の5が、水と緑の恵みを活かし、自然と人が共生するまち岡山。そして、最後、案の6が、普通種が普通に見られ、豊かな自然を感じるまち岡山。以上のような形になります。6つ案を出させていただいたんですが、やはり今日的なキーワードを使ったほうがいだろうと考える部分もありますし、そのキーワードと感ずる部分がそれぞれ皆さんによって異なりますので、それらは第1回のワークショップで実際に市民の方から上げていただいたキーワードなども入れた形にしたというのが最終的なこの6つの案になります。

後ほどぜひご意見をいただきたいのが、これにというのではなくても構わないので、大体こんな形で、こんなキーワードはこういうふうにするといいいんじゃないかとか、そういった部分のご意見をいただけるとありがたいなと思います。大事なことは、これを岡山というところを例えば倉敷ですとか別の地域にしてもそのまま伝わってしまうと、それは岡山の目標にならないというんですか、岡山市の目標にならないと思うんですね。ですので、これが岡山市らしさというのをちゃんと示しているか、そういう部分をぜひご検討いただければありがたいなと思います。我々としては出してみたいんですけども、なかなか難しいところでして、ぜひご意見をいただきたいところでございます。

まず、こちらが目指す将来像案になりますが、続きまして、次をお願いします、その将来像案、理念のようなものに向けて、基本戦略をどのようなものにしようかというので立てたのがこちらでございます。

まずは基本戦略、大きくは3つ挙げております。左側の3つです。1つ目が生物多様性を守るという視点で、生き物が暮らす多様な環境の保全と創出、再生。そして、生物多様性を生かすという視点で、自然を活用した地域づくり。3つ目として、生物多様性を支えるということで、生物多様性を育む人づくり、仕組みづくり。大きくはこういう3つの戦略を出させていただきました。

それぞれにひもづく状態目標、これを行ったことによってどういうふうになってるか、10年後にどのような状態になっているかというのを示したのがこの状態目標になりますが、1番目の生物多様性を守るという方針で、保全と創出、再生を進めた結果、生物多様性を育む水辺、水路や水辺のネットワークが維持強化されてる。あるいは生物多様性を育む里地里山や緑地、農地の保全がなされている。あるいは生物多様性の回復、創出が進み、市域の生態系ネットワークが形成されている。そして、生物多様性を著しく損なう外来生物対策が推進されている。このような状態を想定しました。

2つ目の生物多様性を活かすの状態目標としては、グリーンインフラなど自然を活用した解決策が地域で取り入れられている。あるいは持続可能な農林水産業の促進による地域づくりが進んでいる。この2点を挙げさせていただきました。

3つ目、生物多様性を支えるにひもづく状態目標としましては、生物多様性を意識したライフスタイルへの転換が進んでいる。生物多様性を支える人が新規に増えている。生物多様性に関わる情報拠点があり、情報の収集、蓄積、活用がされている。そして、生物多様性について正しく学び、実践している。最後に、生物多様性について様々な主体との連携による事業が進んでいる。このような形にさせていただきました。

このような状態目標を具体的に考えるに当たってなんですが、次のシートをお願いします。

次のシートで一番右側に出させていただきましたが、ターゲット、狙いというもの

を想定して考えました。例えば1番目のところだと、生物多様性、生態系、これの生態系の中でも種とか場ということを想定して、こういう状態になるようにしよう、こういうふうを考えていったというところでございます。ですので、このターゲット、狙いというものを一緒に見ていただいたほうが分かりやすいのかなと思います。

こちらのシートにしておくことにしましょうか。一番上の状態目標から見ていきますと、グリーンが一番上ですが、生物多様性、生態系がこのような状態になってほしいというのを挙げていますが、2つ目の状態目標で緑地と併せて農地というのを出しているのも一つの特徴かなと思います。ぜひそこは重視したいと考えて、あえて入れております。また、3点目の状態目標については、回復あるいは創出といった積極的な施策を行うことで、遊休農地であったり放棄地であったりという現在劣化している場所だと言われている場所をよりよくしようという、今一番多分国としても施策として力を入れてる部分ですが、それをこちらに持ってきております。そして、緑の一番最後、4点目ですが、ここには外来生物について入れております。よく外来生物と一緒に語られることが多い獣害対策といった部分につきましては、今回考えた中では2つ目の基本戦略のうちの2つ目の状態目標のほうに入れております。

その2つ目のほう、そのまま見ていきますと、2つ目の基本戦略に対する1つ目、状態目標ですが、こちらは防災・減災あるいはグリーンインフラということを狙ってつくった状態目標でございます。2点目が先ほど申し上げた獣害という視点であったり、あるいは地産地消という、やはり農水関係ですね、そちらへの対策も含めた狙いでこの状態目標を入れております。さらには市民との連携ということも図りやすいんじゃないかということでこちらに入れてあります。

最後、生物多様性を支えるの基本戦略に対して5つですが、それぞれターゲットを見ていただくと分かるように、一番最初は行動変容。市民それぞれが自分たちの暮らしあるいは行動を変えていきたいと思いますということを促すものですね。それが1つ目。2つ目は、積極的な人材育成を呼びかけるようなものです。3つ目が情報発信の方法

であったり、市民意見の取り入れ方、あるいはその活用の仕方ですね。その具体策として挙げてるものになります。この生物多様性に関わる情報拠点が欲しいというような意見はワークショップ等でもありましたので、そのような観点からこの3つ目を入れております。そして、4つ目は、ESDの推進ということで、ESDというのは岡山市の非常に特徴的な取組の一つでもあると思いますので、教育分野での取組、そちらもしっかり掲げてもいいのではないかとということで入れております。最後は、市民、企業、団体との連携あるいはマッチングということで、多様なステークホルダーがどんな形で実際の施策、よりよい環境状況をつくり出すことに関わっていくのかというところを入れ込むような目標になっております。

以上、これが前の前の図のページの目指す将来像と、それからこの施策体系の頭出しということで基本戦略、状態目標というその3つについて、まず案としてお出しさせていただいたものになります。

初めに、目指す将来像について、今回、最後の議論の場となりますので、ぜひご意見をいただけますとありがたいです。

以上でございます。中村先生、よろしくお願いいたします。

○中村会長 ありがとうございます。

目指す将来像案というのと、それから施策体系の頭出しということで、方向性、そちらに関してはこれでいいのかということを決めていきたいと思いますが、まず将来像案について、案が1番から6番まで出ていたと思います。例えばこれがいいとか、もしくはさらにこういうふうな言葉を入れたほうがいいのか、1番と何番はつなげたほうがいいのか、何かいろんな案があると思いますので、いろいろとご意見を言っただけだと助かります。よろしくお願いいたします。

○八田委員 はい、よろしいです。

○中村会長 はい、お願いします。

じゃあ、まず山地先生、お願いします、そしたら、はい。

○山地委員 案4で自然のめぐみを活かすと書いてますけど、この自然を旭川と変えれば岡山市独自のものになるんじゃないんです。旭川のめぐみを活かし、持続可能な社会を実現する。旭川だけだと岡山のほうから岡山ではこれだけとご覧になれるかもしれませんが、一つのポイントとしてですね。

○中村会長 それでは、宮崎先生、お願いします。

○宮崎委員 よろしいですか。

○中村会長 はい。

○宮崎委員 すいません。今の山地先生のご意見に対してはよろしかったですか。何も、何というか。

○中村会長 まず、ええ、お願いします。

○宮崎委員 ありがとうございます。岡山大学の宮崎といいます。

すみません。確認なんですけれど、これ、どれか1つだけ選ぶということになるんですよね、スローガンというか。

○中村会長 どれかを選ぶということではなくって、だから今の山地先生みたいな感じでこれを修正するであるとか、場合によってはもちろん全く違うものにするでも全然構わないんですけど、ただ案がたくさんあるまま今日は終わらせられないというそういう感じにはなります。

○宮崎委員 なるほど、分かりました。

ネイチャーポジティブという言葉なんですけれども、もちろんサーティバイサーティという目標があって、今回のプランの新しい10年後の未来へという、向けてのことだと思うので、今そのネイチャーポジティブという言葉が使われるというのは、今回のその見直しというのには今回っぽいのかなというふうに思うんですけれども、一つ、私、この言葉がどこまで果たして浸透しているのかということが少し不安に思うところがあって、メリットとそのデメリット、分かってもらえるかどうかというところがこういう新しい言葉っていうのにはあるのかなっていう気がしました。

もっとも、すっと入ってくるといいますか、分かりやすかったのは、私も案4が、岡山市というのは県庁所在地で都市域というのかなり発達しているので、持続可能な社会を実現するまちというのが入るといというのは一つよいのかなというふうに感じました。

○中村会長 ありがとうございます。

じゃあ、待っていただきましたから、お願いします。

○八田委員 八田です。皆さん、お願いします。

山地先生もおっしゃっていましたが、市民アンケートのほうでも旭川、百間川、吉井川、阿部池とか、水域を示される方が結構多くいらっしゃったので、やっぱり岡山市イコール水、川、水辺のイメージが大きく市民の中でもあるのかなというふうに感じました。なので、5番の水っていうそのキーワードが入っているというのはとてもよいのかなというふうに思いました。

以上です。

○中村会長 ありがとうございます。

それでは、まずいろいろと意見を言っていただきましたけども、最初に発言いただいた山地先生の自然のめぐみというのをもう具体的に旭川のめぐみみたいに変えてしまおうみたいな意見については、皆さんいかがでしょうか。特に反対はないと思うんですけども。そうするという意味ではなくって、ですからそういう意見もありましたという感じにはなるかと思うんですけども。いずれにせよ、今の八田先生のお話にもありましたように、水であり、旭川であり、そういったものがやっぱり重要になってくるのかなというところはあるかと思えます。

それから、以前打合せのときにもあったんですけど、やっぱり何か新しい言葉を使うのはどうかという意見が以前にもありましたので、そのあたりはやっぱり危険かなというふうに皆さん思っただけなのかなというふうな気がします。

ほか、何かご意見はございますでしょうか。

すいません、堀江先生、お願いします。

○堀江委員 私も、具体的な地名を入れるのは、何か岡山市らしさが出ていいのかもなと思いました。それが旭川だけになってしまうというのが懸念されるのであれば5と混ぜるような形で緑の恵みとかと混ぜてであるとかが一つと、あとは自然を利用してっていう方向性と、それを身近に感じるというような両方が入っているほうが私は好感が持てたんです。恵みを生かして持続可能になっていうと、何か人がその自然から何かを享受する印象が強いので、季節を感じられるまちとか、共生するまちっていうような、自然と人が両方とも手をつないでいるような印象の言葉が入っているととてもよいのかなと思いました。なので、この今あるプランの中から言葉をシャッフルしてもよいということだと思うので、ちょっと検討していただけるとうれしいです。

○中村会長 ありがとうございます。

ほかに何かございますでしょうか。

○山地委員 よろしいです。

○中村会長 はい、お願いします。

○山地委員 この最後にまち岡山が出ますけれど、このまち岡山と自然が対比しているような感じに見えるんですけども、自然の中で生きれるまちというような感じではできないですかね。市街の中に自然はあるんだし、自然とまち岡山は別のもんじゃないということですね。そういう感じの言葉ですね。

○中村会長 それは、まちという表現を変えたほうがいいという、そういう感じですか。

○山地委員 まちと自然が一体になったような言葉にできないかなと。

○中村会長 そうですね。よりよい表現がもしあれば検討していただきたいですね。ありがとうございます。

ほかに何かございますでしょうか。

○池本委員 すみません。

○中村会長 どうぞ。

○池元委員 お世話になります。自然保護センターの池本です。

先ほど根岸さんが言われとった、岡山の将来像についての岡山らしさっていうのを言ってたんですけど、こちらのさっきの基本戦略とか状態目標を見させていただきますと、これが岡山らしさというか、まずどこにも通用しそうなイメージを受けてですね、その目指す将来像っていうのが、これを見る限りどんな取組内容のイメージがあって、何とかこの基本戦略の中から目指す将来像をはめていけばいいんじゃないかなとは思ったんですが。ちょっとイメージ的なことで申し訳ないです。

○中村会長 はい、お願いします。

○根岸 根岸でございます。よろしいでしょうか。

○中村会長 はい、お願いします。

○根岸 池本様、ありがとうございます。あと、すいません、先ほど多分堀江先生の前に宮崎先生ですかね、手を挙げていらっしゃったかなと思ったんですが、大丈夫でしょうか。違いますかね。すいません。

そうしましたら、幾つか先生方からご意見をいただいた中で、一つさらにご意見をいただきましたかったのが、まず堀江先生の自然を利用ということ、あと身近に感じると、その両方を入れるといいということで、身近な部分は割と入るんですが、利用のほうは何かいい表現があるかなというのをもう少しご意見をいただけるとありがたいなと思ったことと、今さらに池本先生のほうから言われたこの状態目標のほうから考えていくというのは確かにありで、だけどこれが岡山市にそぐわない部分とか、あるいは一般的過ぎるんじゃない、一般化し過ぎてないというところもあると思うので、もしよろしかったらこちらから議論いただいても構わないです。一般化し過ぎているかもしれませんので、はい、というところです。

あと、すいません、最後、山地先生のほうからいただいた、まちという表現を、ある意味自然と相對するような言葉なので、使用しない方法もあるんじゃないかという

ことだったと思うんですが、それは表現で工夫できるかなと思っています。今回たまたま何々で何々なまち岡山というふうに全部まとめているんですね。ですので、何々で何々な岡山を実現するとか、書き換えることは全く可能で、まちという言葉を使わない形は可能ですので、それは考えてみたいと思います。

すいません。今いただいた意見に対して、現時点で言える案を申し上げてみました。以上です。

○中村会長 ありがとうございます。

ですので、今のご発言について、さらに何かご意見等ございますでしょうか。

田辺先生、お願いします。

○田辺委員 はい、ありがとうございます。

ややこしくなるのかもしれないんですけども、保全と再生をもうちょっと明確に分けることもできるのかなと思って状態目標を拝見していたんですけども、保全ってつまり今の現状を維持し続けるっていうような解釈を私はしてしまっていて、それをもっと増加させるとか、消えかかっているものを増やして再生させていくっていうところで状態目標をもうちょっと明確にしてみると、その具体的なプランが市民のワークショップみたいなことなんかも企画がしやすくなって皆さんが自分事で考えやすくなるんじゃないかなと思ったんですけども、いかがでしょうか。

はい、以上です。

○中村会長 ありがとうございます。

根岸様、いかがでしょうか。

○根岸 ありがとうございます。

確かにそうですね。保全の用語としてはイコール維持みたいな形で、再生のほうが増加、いわゆるアップというようなことで、確かにそうですね。具体的にはそうですね。今述語として使っている用語が大体維持強化されてるとか、ここも確かに並列しちゃってますね。あと、形成されてる、推進されている、保全がなされている、取

り入れられている。もう少し差別化してみるということですね。

○田辺委員 はい。そういう整理の仕方もまだもう少ししたら、もっと解像度が上がる気がしたので、はい。

○根岸 分かりました。ありがとうございます。その場合、例えばここでターゲットとしてるものをもっと分けたほうが良いということもありますかね。

○田辺委員 そうですね。そこまではちょっと私も想定していないんですけども、そういうことも考えられるのではないかと思います。

○根岸 分かりました。ありがとうございます。考えてみたいと思います。

○中村会長 ありがとうございます。

ほかに何かございますでしょうか。将来像のほうから始まって、もう施策体系の頭出しのほうにも話が進んでますけども、どちらでも構いませんので、何かご意見がございましてでしょうか。

○根岸 すいません。根岸ですが、よろしいでしょうか。

○中村会長 はい、お願いします。

○根岸 先ほど八田先生からでしょうか、岡山市はやはり水、川、水辺というのが市民意見からもイメージされる視点として出てきますねというお話があったかと思うんですが、かつ山地先生のほうから旭川という具体的な河川名を出したらより岡山市らしくなるんじゃないかというご意見もあったので、そこら辺だけでも一つ決められるとありがたいなと思っています。少なくとも水なのか、水辺なのか、ってなるか、それはもう多分入れたほうが良いのかなと思いました。

水と緑というふうに言ったほうが良いのか、あるいは案2のように、森、里、川、海、人、非常に欲張ってはいるんですが、市域が縦長で、旭川をはじめとした河川がそれらをつないでいるということであったり、人の行き来も市街地とそれ以外のところをつなぐために新しい生き物の保全活動の導線みたいなものをつくるとか、そういった意味合いもあるので、その辺をうまく表現できればいいなと思っているんです

が。

水に関しては何か入れられればいいのか、具体的な河川名がいいのか、水辺ぐらいにしといたほうがいいのか。水辺だとどういうのをイメージするのか、人によって異なるのでなかなか難しいんですけど、ちょっとそこだけでもご議論いただけますとありがたいです。

○中村会長 そうすると、今もありましたように、もう水にするのか、それとも水辺という表現のほうがいいのか、場合によってはもう具体的に旭川みたいなものにしたほうがいいのかみたいな、そのあたりについて何かご意見があればお願いします。

○山地委員 いいです。

○中村会長 はい、お願いします、山地先生。

○山地委員 水というどうしてもH₂Oになっちゃうんで、自然と水と直には感じられないんじゃないかないう気がします。岸边とか、せせらぎとか、そんな感じの言葉がいいんじゃないかなと思うんですけど。

○中村会長 ありがとうございます。確かに水道水も水ですもんね。

ほかに何かございますでしょうか。

○堀江委員 いいですか。

○中村会長 はい、堀江先生、お願いします。

○堀江委員 私は、案2の森、里、川、海、人がつながっている感じが結構好きだなと思っていて、生き物で季節を感じられるまちになってますけど、海、里、川、海、人のつながりを感じみたいな感じにしても、岡山の縦のラインというのもとてもよいかなと思ったので、水辺というような言い方とか、水をクローズアップしたいっていう、したら岡山らしさが出るんじゃないかなというのもとてももっともだと思いましたし、ここの中にも花と海とか岡山のこの地形をイメージできる言葉がたくさん入っているので、堀江は結構案2を気に入っています。それをこれらのつながりを感じて持続可能とか自然と人が共生するというような後にも構わないのかなという

気がしました。

以上です。

○中村会長 はい、お願いします。

それでは、山地先生、お願いします。

○山地委員 案の2の森、里、川、海、人ですけれど、これの道というのが入ったらいいんじゃないかなと思うんですけれど。道というのは、人が歩く道だけではなくて、動物が行き来する街道とか、鳥が飛ぶ道とか、いろいろありますよね。そういう意味での道を入れれば。

○中村会長 ありがとうございます。

それじゃあ、お願いします。

○大塚委員 はい。野鳥の会の大塚です。

一つ前におっしゃった森、里、川、海という列挙が僕もいいと思うんですけど、水と緑という言葉は岡山市がよく使ってまして、今ちょっとネットで調べたら平成20年頃の市の総合計画は水と緑が魅せる庭園都市岡山というのを長く使ってたので、ちょっとそこからもう一段具体的に述べたその列挙型の森、川、海とかが出てくるのがいいなと思います。

それと後半のほうですけど、感じるとか共生するとかいろいろありますが、つながってという言葉があると、それは次の市民の人たちのアクションを喚起するというか、主体的につないでいくっていう行為を求めているというニュアンスが出るかと思うんで、その言葉がいいんじゃないかなという、その2つ意見を申し上げます。

○中村会長 ありがとうございます。

ほか、何かございますでしょうか。

○根岸 先ほど状態目標からというご意見もありますので、状態目標もにらんで見ていただきますとありがたいんですが。

○大塚委員 状態目標での意見を言ってもいいですか。

○中村会長 はい、いいですよ。お願いします。

○大塚委員 私、もう5分ぐらいで退席させてもらわないといけないんでちょっと先走りますけど、状態目標への意見のようなことで、今まで説明がない資料ですけど、事前に送っていただいたものを見てる中で、生態系サービスっていう、どこでも、どこの計画でも出てくる言葉ですけど、それに関してもうちょっと何かその言葉が身近に感じられるといいのになという意識があったのでこういうことを申し上げますけど、この状態目標の中に生態系サービスの恩恵を正しく認識できているみたいなような一節が欲しいなというのをちょっと思いました。生物多様性という言葉が非常に多いんですけど、それと絡めて生態系のサービスの恩恵を受けているということにちょっとつないでいったような目標設定ができるといいのになと思いました。

それから、もう一点だけですけど、あとこれと直接関係ないかもしれませんが、岡山市の市域っていうのは今縦長でというお話もありましたけど、これは社会的な人の都合あるいは政治的な決定とかで出来上がった市域なもので、生物のその生息地で必ずしもつくられた線に囲われてるわけじゃないので、どこの計画のどこでもいいんですけど、市域の周辺地域、他市町村になりますけど、そこの有機的な連携を取った上で岡山市の生物多様性、保全がなされるというような指摘が1か所はどこか欲しいなとちょっと思いました。

以上です。

○中村会長 ありがとうございます。もうまさにそのとおりの感じですね。

ほかに何かございますでしょうか。

○根岸 根岸です。よろしいでしょうか。

○中村会長 はい、お願いします。

○根岸 ご意見ありがとうございました。

まさに生物多様性というのは用語が難しく、分かりにくくって、そのサービスの

享受という意味からいうと生態系サービスのほうが分かりやすいというところは本当にありますので、その恩恵を受けているという部分はうまく入れていきたいと思えます。生態系サービス自体は、それだけだと用語はそれでも難しい部分はあるんですが、市民の目線でやはりやるのが大事だと思うので、入れたいと思えます。

それから、境界について、確かに生物界というのは、生物にとっての境界というのは人の行政界とは関係ありませんので、きちんとその周辺地域との連携ということ意識してということをやったり政令市でもある岡山市さんが出すということはずごく意義もあると思えますので、周辺ということは確かに全然入っていませんので、入れたいと思えます。獣害対策とかもそうですし、ネットワーク的な部分もそうですが、市域だけではできないこともありますので、それはぜひ入れたいと思えます。貴重な意見をいただいたなというふうに思いましたので、ちょっと意見させていただきました。ありがとうございます。

○中村会長 ありがとうございます。

○根岸 以上です。

○中村会長 はい。それでは、ほかに何かございますでしょうか。

宮崎先生、お願いします。

○宮崎委員 はい。今映っているスライド、ここの状態目標への意見というのも今よろしかったですか。

○中村会長 はい、大丈夫です。

○宮崎委員 はい、ありがとうございます。ちょっと正しいのかとか、あれなんですけど、人づくり、仕組みづくりっていう表現なんですけれども、人づくりというふうにしてしまうと、新しく策定するこの生物多様性おかやまプランというのが、市民のそれぞれの個人に訴えかけるというよりかは、人づくりというふうにしてしまうと、何かしら組織が上のほうにあって、人材育成をするんだというようなことで、個人個人の中で多様性を認識するとか、実際のアクションを起こすとか、役割を認識す

るというような自覚というのがあまり、ちょっとそれから離れているようなイメージを受けるんですね。もう少し上のほうでやっているような活動のようなイメージがあるので、というよりかは例えば役割なんだというような文にしてしまっただけで、個人個人でこういう役割があります、自治体はこういう役割があります、企業、事業者にはこういう役割がありますというような何か表現に、あまり強くやってもよくないとは思いますが、何か個人個人でこういう自然からの恵み、生態系サービスからの享受というのを受けてるものがある、それに対する私たちの役割というような表現のほうがいけないかなというふうに思いました。

○中村会長 ありがとうございます。そうですね。このあたりは表現はまだまだ変えられるというか修正できる部分だと思いますので、そのあたりご検討をお願いします。

ほかに何か、どちらのほうでも構いませんので、ございますでしょうか。大丈夫でしょうか。

○堀江委員 すいません。ちょっとだけいいですか。

○中村会長 はい、お願いします。

○堀江委員 先ほどの人づくり、仕組みづくりのどこなんですけど、一番上の生物多様性を意識したライフスタイルっていうのがぱっとイメージできないんですが、どのようなものをイメージしたらいいんですか。

○根岸 はい、根岸です。

例えば日常的な食料品を買うときにエコラベルがついたものを購入するであったり、あるいは3Rでもいいんですけども、リサイクルといったことを積極的に行うであったり、一般の市民の暮らしの中では多分そういうことが出てくると思います。それがそれぞれ、じゃあ企業だったらどうだろうかとか、それぞれで在り方をより細かく変えていくような部分が実際このライフスタイルというところになっていくと考えています。

○堀江委員 だから、その一般の方の理解を考えたときに、ちょっと言いにくいかな

と思って。特に購買の際にそういうものを選ぶっていうのは、今も情報があふれていたりして、ある方はもうそういうのをされてると思うんですね。それを、要は理解の進んでいない層にさらに働きかけるっていうことなのか、あるいはもっと直接的な自然との関わりを意識したような生活を提案しているのか、ちょっと見えづらいところがあるかなと思ってお聞きしました。商品を買うときにそういうものに配慮したものを選ぶというのはもちろん生物多様性を意識したライフスタイルだとは思いますが、何か本来であればもう一歩進んで何かできたらいいのかなと思ったりはします。ただ、具体的にそれぞれの人たちが身近でできる活動っていうものをこちらもちんとイメージできていないんですが、ちょっと見えにくいかなと思いました。

○根岸 はい。さらにこの先の具体的な施策まで挙げると見えてくるかもしれないんですが、市として呼びかけられることと、例えば個人個人が、市でやらなくてもできる努力事項と、いろいろな階層があると思うので、その施策と結びつけたときの整理でもう少し分かりやすいように整理するようにいたします。多分このライフスタイルにぎっくりと組み込まれてしまっているかもしれないけど、ただ、今これを挙げた時点では、例えば自然との触れ合いの機会を増やすというようなところはもうちょっと積極的な部分の保全活動とかのほうにイメージしていたもので、ちょっとここでは考えていなかったんですが、でも今までその機会がなかった人にとっては、それも確かにライフスタイルの転換かもしれないので、どこに結びつけるかはぜひ考えてみたいですね。具体的な施策とかターゲットですね。人なのか、それとも自然の状態なのか、そのターゲットによって、この基本戦略のどこに結びつけるのかっていうのが多分変わってくると思うので、少しそこを考えてみます。もう少しですね、はい。

あと、ライフスタイルという言い方は、もう少しここも考えてみます。ありがとうございます。

○堀江委員 はい。むしろ一般の方からすると、自分の生活にそれをどう結びつけたらいいのかというところが具体化されると分かりやすいと思ったので、施策の部分で

それを、どういうものがそれに組み込めるのかというのはいろいろ検討していただくとうれしいです。

○山地委員 よろしいです。

○中村会長 はい、山地先生、お願いします。

○山地委員 ライフスタイルということですけど、うちは団地の中に住んでるんですけども、その団地は塀を造るときの制限とか、生け垣が推奨されたりしたとかあるんですよ。道を歩いていると高い塀がずっとつながっているような町よりも、生け垣がつながっている町のほうがいいだろうというような感じなんですけど、そのような感じの都市計画的なことも考えたらいいんじゃないですか。

○根岸 はい、ありがとうございます。確かにそうですね。かつ確かに都市計画的なので、このプランの中ではどこまで言及できるかはなかなか難しいところではあるんですが、生け垣になればそこを生き物が利用するという利点はあって、人にも生き物にもよいという視点でここでも書けるかもしれませんので、そういった具体例も考えながら、施策に入れるようにしたいと思います。はい、ありがとうございます。

○中村会長 ありがとうございます。

ほかに何かございますでしょうか。

はい。

○田辺委員 はい、私もよろしいですか。

○中村会長 はい、お願いします。

○田辺委員 はい。主にそのライフスタイルのところなんですけれども、例えば日頃全然公園とか自然豊かなところを散歩したことがない人がちょっと行ってみようかなと思うとか、そういうこともライフスタイルの転換とかになっていくと思うんですけども、生物多様性に配慮したライフスタイルみたいな言い方に変えると、もっとふんわりと自分のライフスタイルにこういうものを取り込めばいいんだなっていう意識にならないかなと思って、少し表現を意識っていうのは配慮したりすると広がりを持た

せられるのではないかなと思って、今山地先生や堀江先生のお話を聞きながら感じました。

○根岸 ありがとうございます。ぜひ検討してみたいです。

○中村会長 ありがとうございます。

ほかにも何か今みたいな感じで、この部分がとか、この表現がとか、あとはかなり一般論的な表現が多いですから、そういったところに対していろいろひょっとしたらご意見があるかと思しますので、もしあればお願いします。

○山地委員 よろしいです。

○中村会長 はい、お願いします。

○山地委員 蒜山なんかではサイクリングロードとかつくったんですよね。岡山市の場合、散歩できるような、人が歩くのが主な道ってのがあまりないような気がするんですけど、そのようなものをつくって、その道自体が公園みたいな感じだと非常にありがたいんじゃないかなと思います。

○中村会長 ありがとうございます。そのあたりも今後検討という感じになるかと思っています。

ほかに何かございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○中村会長 かなり意見が出てきたと思うんですけども、そろそろまとめに入りたいんですが、まずは目指す将来像案のところでたくさん意見が出てきて、逆にまとめづらくなってきた部分もあるんですけども、でもやっぱり水辺が、ただ水と緑はもう既に出てるんじゃないかとかいうような意見もございましたし、ただ雰囲気としては、例えば2番のいろんな森から人まで、さらには道とかも含めてつながったような言葉であるとか、やっぱり水だの水辺だの川だのそういったものがとか、いろいろ表現、細かい表現とか、こっちのほうがいいんじゃないかとか、たくさん意見が出たんですけども、さらにもう少しこのあたりまで決めたほうがいいというようなものはござい

ますでしょうか。

○根岸 すみません。根岸ですが、今日ぜひ決定をとというふうに中村先生にお願いしてしまっていたので申し訳なかったかもしれないんですが、今日少しご議論いただきましたので、組合せを変えまして、かつ今出してる6案の中から完全にこれではないんだなというようなところも出たかと思しますので、次回またちょっと出させていただきます。

私の意見になるかもしれないんですが、恐らくネイチャーポジティブという言葉は、やはり今はいいかもしれないけど、今後にもずっと使っていけるのかという点でやや課題があるのかなという認識は共通しているのかなと思いました。というのは、ネイチャーポジティブという言葉を使ったほうがいいんじゃないかというご意見はなかったように思うので。使ってもいいかもしれないけどというようなご意見だったかなと思うので、よいほうのご意見だったとしても。ですので、それは多分切っていく方向で考えてみます。

あと、つなぐという言葉を使いましょうという、これは非常に共感も得やすいですし、また分かりやすいですし、岡山市を象徴してるとも言えるので、それはぜひ考えてみたいと思います。

それから、まちという用語を使わない方向ですね。この表現も考えてみたいと思います。

そのあたり、あと水辺を出すということ。水という、水辺の表現を出すということですね。これも入れたいと思います。

せめて半分の3案ぐらいにして、次回またお出しさせていただくようにしようかなと思いますが、先生、いかがでしょうか、中村先生。

○中村会長 いや、私的にはそのくらいにさせていただいたほうがうれしいんですけども、委員の先生方、そんな感じでよろしいでしょうか、こちらに関しては。何か。大丈夫でしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○中村会長 じゃあ、また議論していただくことになると思いますが、そちらに関しては。目指す将来像に関してはそんな感じで、それから施策体系の頭出しですけども、こちらに関してもそれなりに文言の修正であるとか、表現を変えてそれからというようなところはもっと具体的にといったところも含めていろんな案が出てきたんですけども、基本的な方針、方向性に関しては特に反対意見もなかったと思うんですが、こちらに関してはそのあたりで、表現は変えるとして、大きな方向としてはこの感じでよろしいでしょうか。ここは変えたほうがいいのかというようなもし意見がございましたらお願いします。大丈夫でしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○中村会長 それでは、こちらに関しても、今日たくさん意見が出たと思いますので、そのあたりの必要な表現を変更するであるとか、もしくは追加する、そういったことを検討していただいた上で、またこの先を進めていくという、そういったことになるかと思います。そんな感じでよろしいでしょうか。

○堀江委員 すいません。1つだけ。

○中村会長 はい、お願いします、堀江先生。

○堀江委員 はい。状態目標のところは農地の保全であったりとか、農林水産業関係のことがちょこちょこ入っていたかと思うんですが、アンケートのほうで事業者の方にしたアンケートに関しては、農業や林業や漁業の方からのアンケートの返答がゼロ%になっていたと思うんです。これを進めるには、やはりそこの現場の方々の理解というのはすごく重要だと思うので、何らかの形でその意見を得るであったりとか、その理解を得る何らかのアクションというのが要るのではないかなと少し思いました。なので、ちょっと検討いただけるとうれしいです。

以上です。

○中村会長 ありがとうございます。全くそのとおりだというふうには思いますの

で。今後、そういった方を中心にしたアンケートとかを取ることは可能ですよね、多分。難しいですか。

○事務局（小野） アンケートはちょっと。何らかの形で……。

○中村会長 アンケートじゃなくても何かしら。

○事務局（小野） ええ。これまでのワークショップに農業に従事されている方も参加されていますので、そういう方からの直接のヒアリングとか、そういうことなら可能ですので、そういうことも検討しながら、状態目標とかもちょっと考えていきたいと思えます。

○田辺委員 そういう意味でしたら、私、JAグループさんとお仕事したりしているので、おつなぎすることができるかもしれないので、お声がけください。

○事務局（小野） ありがとうございます。

○中村会長 ありがとうございます。ですから、もちろんこの状態目標のあたりにもそのあたりを入れている以上、特に施策とかのところでもそのあたりを無視せずにと
いうか、十分配慮しながら進めていっていただきたいというふうに思います。

ほか、何かございますでしょうか。

はい、池本先生、お願いします。

○池本委員 すいません。用語についての質問なんですけど、今さらなんですけど、今回の骨子案の中で課題の整理のところには谷戸とか谷津田という言葉が出てきたんですが、前は多分なかったと思うんですけど、この言葉って岡山では普及というか普通に使われている言葉なんですかね。何らか説明が必要であったりしますかね。その辺が分からないんですけど。

○八田委員 どこですか。

○池本委員 パワーポイントというか、2の課題の整理、生物多様性の視点からというところで。

○根岸 そうですね。ご意見ありがとうございます。里地里山エリアの恐らく特徴の

ところにも上げさせていただいてますね、はい。

○池本委員　そうですね、はい。骨子案のほうには谷津田という言葉も使われてるんで。ここですね。

○根岸　これ、そうですね。まず、これの里地里山エリアで丘陵地に形成された谷戸、棚田、これの谷戸で、ここで谷戸を使っていて、谷津田。

○池本委員　これは骨子案のほうに使われています。

○根岸　分かりました。そうですね。土地利用的な意味で、基本的には根拠資料があって使用しているという形ではあるんですが、再度確認してよろしいですか。また、谷戸と谷津田が混在してるのは、まずよくないかなとも思いますので、再度確認するようにいたします。

○池本委員　よろしくお願ひします。

○根岸　はい、ありがとうございます。

○中村会長　ありがとうございました。

ほかに何かございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○中村会長　大丈夫でしょうか。かなり活発な議論になりましたけども、ただいま協議いただきました委員の皆様のご意見を取りまとめると、たくさん意見が出ましたので、そういったものを文章とかを修正したりとかしながら、取りあえず将来像案に関しては、また案を減らして次回また出していただき、次ぐらいには決めてしまいたいという、そういう感じになるかと思ひます。

また、基本戦略、それから状態目標、そのあたりについてもいろいろ意見が出ましたので、それに応じてというか、それに沿って表現の修正であるとか、追加であるとか、そういったところを検討していただくということになろうかと思ひます。

そのほかに事務局から何かありますか。

○事務局（山根）　事務局からは特にござひません。

○中村会長 また、委員の方々も、本日の内容について追加でご意見等がありましたらご発言ください。

大丈夫でしょうか。

すいません。山地先生、お願いします。

○山地委員 意見というか感想なんですけれど、生物多様性というのはある程度人間がどうこうして管理できるようなものでもないと思うんで、できるだけ穏やか、緩やかな方向でやっていただきたいと思います。

○中村会長 ありがとうございます。

ほかに何かございますでしょうか。大丈夫でしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○中村会長 では、これで審議を終わります。

事務局には、審議会の意見を十分に踏まえ、今後の対応等をお願いします。

○事務局（山根） ありがとうございます。

本日は、それではこれで閉会とさせていただきます。長時間にわたりご審議いただきまして誠にありがとうございました。ご意見を踏まえて、今後も検討を進めてまいりたいと思います。引き続きどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

午後4時47分 閉会